

2025年3月31日

DealWatch 編集部

LSEG DealWatch、2024年度の「DEALWATCH AWARDS」を発表

総合部門の発行体に「東京地下鉄」

引受ハウスに「大和証券」を選定

ロンドン証券取引所グループ(LSEG)の「DealWatch」は、2024年度に国内資本市場において債券や株式を発行した優秀な発行体、海外でオファリングを行った本邦発行体および案件を運営した引受証券会社を称える賞「DEALWATCH AWARDS 2024(ディールウォッチ・アワード 2024)」を発表しました。

DEALWATCH AWARDS は、日本関連の資本市場の育成・拡大に資することを目的に 1995年に設置されました。「本邦市場が世界の主要市場としてさらに発展していく」という観点から、アワードは発行市場における適正なプライシング、流通市場に移行した後の価格形成、資本市場の発展への貢献や創意工夫などを考慮し選定されています。

2024年度の DEALWATCH AWARDS は、「総合」「社債」「地方債」「クロスボーダー債」「サステナブル・ファイナンス」「株式」の計6部門で構成されています。総合部門では発行体に「東京地下鉄」、引受ハウスには「大和証券」がそれぞれ選定されました。

賞の選考方法は、まず主幹事実績やシンジケート団参加の実績がある引受証券会社や機関投資家にアンケートを依頼し、該当会計年度の案件から各部門の受賞候補を推薦して頂いています。2006年度からは、希望する証券会社からの自薦を受け、DealWatch 編集部が、選定された候補案件や候補者を DealWatch Awards 判断基準にのっとり、さらに吟味・選考した結果、最終的に受賞案件、受賞者を決定しております。

2024年度の DEALWATCH AWARDS 受賞一覧は添付資料をご覧ください。

DealWatch について

DealWatch は日本の企業および地方公共団体、非日系発行体の資金調達活動をリアルタイムにリポートする日本語のスクリーンニュースサービスです。その速報性、正確性、専門性の高さには定評があり、信頼できる資本市場情報として、市場関係者から支持を得ています。主幹事・引受等のリーグテーブルは、客観的かつ公平な指標として、発行体の主幹事選定や引受業者のマーケティング活動において幅広く活用されています。

LSEG について

ロンドン証券取引所グループ(LSEG)は、世界をリードする金融市場インフラおよびデータプロバイダーであり、グローバル金融システムにおいて社会的・経済的に重要な役割を担っています。オープンなアプローチで、信頼性の高い専門知識をベースにグローバル展開することで、お客様とそのコミュニティの持続的な成長と安定を実現しています。当社は、データとアナリティクス、インデックス、資本調達、複数アセット・クラスにわたるトレーディングの執行、クリアリングとリスクマネジメントの分野において豊富な経験や幅広い知識と共に専門性の高いパートナー企業として世界中で事業を展開しています。LSEGの本社所在地は英国で、欧州・中近東・アフリカ、北米、アジア太平洋地域の70カ国で事業を展開しています。世界中で23,000人の従業員を雇用し、その半数以上がアジア太平洋地域で業務遂行しています。LSEGの証券コードはLSEGです。

LSEG データ&アナリティクスについて

金融市場のデータとインフラの提供で世界をリードするLSEG データ&アナリティクス部門は、約190カ国の4万社以上の企業と40万人以上のユーザーを顧客基盤とし、世界の金融コミュニティに欠かせないパートナーとして、金融サービス業界におけるデータの未来を再定義しています。データ、フィード、アナリティクス、AI、ワークフロー・ソリューションを通じてお客様が重要なインサイトを導き出す手助けをしています。また、当社独自のインサイトをお客様のワークフローにシームレスに統合することで、お客様がビジネス機会を特定し、競争優位性を高めるための支援をしています。

以上

DealWatch に関する問い合わせ先:

DealWatch 編集部 鈴木: kaho.suzuki@lseg.com 竹本: yuuki.takemoto@lseg.com

DEALWATCH AWARDS 2024 受賞一覧**総合部門****<Issuer of the Year>****東京地下鉄**

完全民営化の方針を示して以来多くの関係者の思惑をまとめ 22 年かけた株式上場。入念な対話を通して安定性の高いポートフォリオと高水準の配当利回りを訴求して「貯蓄から投資へ」を加速させる全員参加型のディールに仕上げ、本年度を代表する案件となった。

<House of the Year>**大和証券**

資本市場の潮流が大きく変わるなか、債券・株式両市場で本年度を代表する大型案件に関与。幅広いテーマの案件で引受手腕を発揮した。新たなスキームや調達が多様化を提案して市場の活性化に貢献したほか、商品開発や啓蒙活動により市場のすそ野拡大につなげた。

社債部門**<Bond Issuer of the Year>****積水ハウス**

買収資金のパーマメント化のため、社債市場を積極活用した。難しい市場環境においても丁寧な起債運営により、投資家の信認を獲得。外債の起債につなげ、本邦企業の大型クロスボーダーM&A の資金調達のモデルを示した。

<Bond House of the Year>**みずほ証券**

金利の復活により転換期を迎えた市場環境において投資家・発行体双方の意向を反映した案件を提案。難易度の高まる局面でも需要動向を精緻に見極め円滑な消化につなげ、デビュー債や投資家保護に向けた先進的な取り組みで市場をリードした。

<Bond of the Year>**第3回住友化学債（1000億円、35年NC5、劣後債）**

SMBC 日興証券／みずほ証券／野村證券／大和証券／三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券

前年度に純損失を計上し、化学セクターに対する見方が厳しいなかでハイブリッド債を発行。業績改善や不採算事業の再構築をデット IR で周知させる攻めの姿勢により大型調達を実現したことで、業績悪化により「格付け資本」の充実が必要な企業に選択肢を示した。

<Debut Debt Deal of the Year>**第1回 IDOM 債(30 億円、3 年)**

野村証券／SMBC 日興証券

社債市場に中古車販売業という新業態で登場。同業他社で起きた不正問題に対してネガティブな印象が払しょくできていなかったが、丁寧な IR、魅力のある水準で投資家の関心を引き付け、大幅な超過需要を創出した。

<Innovative Debt Deal of the Year>**第2回 ジャパンインベストメントアドバイザー債(21 億円、2 年)**

みずほ証券

日本企業の買収や非上場化が増え、社債管理が課題となるなか、大株主の異動や上場廃止をトリガーに加えた CoC 条項により投資家は保有社債の償還請求が可能になるプットオプションを付与した初の案件。今後、社債権者保護に向けた商品設計の礎になる可能性がある。

地方債部門**<Local Government Bond House of the Year>**

野村証券

不安定な発行環境で需給の均衡点を探り、安定消化が可能な水準づくりに徹し、市場のけん引役を果たした。発行額の増加が一巡した ESG 債市場では、投資家需要の変化について自治体と協議の上、妥協点を探り、市場の健全化に努めた。

<Local Government Bond of the Year>**第4回 共同発行市場公募地方債(628 億円、10 年、グリーンボンド)**

野村証券／みずほ証券／大和証券／しんきん証券

プライシングの柔軟性がない地方債で、投資家目線のかけ離れたグリーンニアムの水準が続くなかで、大型のグリーンボンド案件として適正価格を模索して調整。同市場でグリーンボンドの居所を新たに示した。

クロスボーダー債部門**<Cross-border Bond House of the Year>**

みずほ証券

非居住者発行体の資金調達ニーズに応え、投資家層の拡大につなげる多くの案件を執行。居住者外債では、国内市場で発行難易度が高まる超長期債の起債を実現したほか、調達手段の多様化を先導して企業の安定調達を支援した。

<Offshore Bond of the Year>

楽天グループドル債(5億5000万ドル、永久NC5年、劣後債)

モルガン・スタンレー／大和証券キャピタル・マーケットツアメリカ／米国みずほ証券／ゴールドマン・サックス／
SMBC 日興セキュリティーズ・アメリカ／ING 銀行／BofA セキュリティーズ／シティグループ・グローバル・マーケットツ／
野村セキュリティーズ・インターナショナル

同社のクレジットとハイブリッド債の商品性について投資家と丁寧な対話を実施し、幅広い大幅な超過需要集め、シングル B 格ながらベンチマークサイズでの起債を実現。国内企業による資金調達で新たな指標を示した。

<Cross-border Yen Bond of the Year>

第1回ルーマニア債(220億円、3年、グリーンボンド)

大和証券／みずほ証券／野村証券／SMBC 日興証券

第2回ルーマニア債(36億円、5年、グリーンボンド)

大和証券／みずほ証券／野村証券／SMBC 日興証券

第3回ルーマニア債(74億円、7年、グリーンボンド)

大和証券／みずほ証券／野村証券／SMBC 日興証券

同国円建て債のデビュー案件。ソプリンのサムライ債としてはトリプル B 格と高くない格付けで、ウクライナの隣国で地政学リスクが高い銘柄が円債を発行した意義は大きい。購入できる投資家は限られたものの一定の需要を集め、同債市場でソプリンの銘柄の多様化を促した。

サステナブル・ファイナンス部門

<Sustainable Finance Issuer of the Year>

芙蓉総合リース

目標未達の場合には寄付か排出権購入が主流だったサステナビリティ・リンク・ボンドにおいて、役員報酬と連動させるスキームを導入し、日本の同債に革新的な道筋を示した。経営の本気度に投資家も需要を積み上げた。

<Sustainable Finance House of the Year>

みずほ証券

国内外の潮流を精緻に分析し、目を引く本邦初・業界初の案件を手掛け、発行体のサステナビリティ経営実現を支援。発行体と投資家間の課題を解決する革新的なスキームの導入により市場のさらなる発展に貢献した。

株式部門

<Equity Issuer of the Year>

アシックス

15社もの安定株主を主体的にまとめ、政策保有株式の縮減に動いた。充実した開示資料により過去最高益を更新する業績をアピールして株主の再編成に挑んだ。力強い事業成長を印象付ける場として売出を最大限に活用し、新たな優良投資家を獲得。経営陣の積極性も光った。

<Equity House of the Year>

野村證券

市場環境に合致した柔軟なスキームを導入し、強固な販売力と的確な条件設定で質・量ともに株式資本市場をリードした。本年度の代表的な案件では、最上位引受会社として円滑な執行を先導。不透明な市場環境においても安定した運営姿勢で圧倒的な遂行力を発揮した。

<Equity Deal of the Year>

サンリオ

[受渡日 12/17] SMBC 日興証券／モルガン・スタンレー・インターナショナル

日本の知的財産の代表格企業として国内外が認める好業績を背景に株価好調時に政策保有株をとりまとめた大型売出。これまでの海外戦略や創業家の企業統治コミットメントも奏功し、グローバルの投資家を魅了した。

<IPO of the Year>

キオクシアホールディングス

[払込日 12/17] モルガン・スタンレー・インターナショナル／野村證券／BofA 証券

本邦初の承認前届出書(S-1)提出方式を採用した大型 IPO。機関投資家と適正価格について活発に議論し、NAND 市場の成長性や同社の競争優位性を訴求した結果、個人投資家や国内外機関投資家から需要を喚起。極めて堅調なアフターパフォーマンスを実現した。

<Equity-linked Product of the Year>

霞ヶ関キャピタル 2029 年満期ユーロ円 CB (220 億円, 5 年)

みずほインターナショナル

新興不動産企業で、外部格付けを有しないことから投資家のクレジット目線が定まらない可能性を考慮。ウォールクロスで投資家の水準を探ったほか、マネジメントによる貸株提供により幅広い投資家に販売して成長資金の調達に成功した。

<J-REIT Deal of the Year>

インヴェンシブル投資法人

[払込日 7/30] SMBC日興証券／みずほ証券／モルガン・スタンレー・インターナショナル

記録的なインバウンド需要の拡大継続が見込める好機を捉え、本年度最大の公募増資を敢行。ホテル業態のインフレ耐性や人材育成基盤を有しフルサービス型を展開する成長可能性について投資家からの理解を獲得した。

<Innovative Equity Deal of the Year>

アストロスケールホールディングス

[払込日 6/4] モルガン・スタンレー・インターナショナル／みずほ証券

本邦IPOで初となる国内、海外両トランシェから投資表明(Indication of Interest: IoI)を獲得。値付けの難しいディープテック銘柄ながら、投資家の強い関心をアピールし、想定発行価格を大きく上回る水準でのプライシングにつなげて成長資金を確保した。

以上